

Ⅲ 共通事項

感染症の状況等や、政府方針の発表、大規模災害の発生等により、入試日程や入試の形態に変更が生じることがあります。その場合は、随時、本学ホームページ等でお知らせいたします。

出願手続きはまず、WEB（インターネット）から行ってください。

本学ホームページ上から手続きできます。 https://nur.ac.jp/examination/#gs_ex

1. 入学検定料及び授業料

入学検定料 30,000円

1. 銀行窓口もしくはATMで払込みをしてください。
2. 振込手数料は受験者本人の負担とします。
3. いったん納入された入学検定料は、いかなる場合も返還しません。
4. 必ず領収書（明細書）を受け取り、大切に保管してください。

授業料等（2025年度年額（例）、2026年度も同額の見込みです。）

	入学検定料	入学金	授業料	合計
1年次	30,000円	100,000円	1,100,000円	1,230,000円
2年次		—	1,100,000円	1,100,000円

※授業料の納入方法の詳細については、合格者に別途通知します。

※長期履修学生（後述 6. 長期履修制度概要 参照）については、授業料年額を別途定めます。

学外実習費の実費徴収について

心の健康科学コース公認心理師課程において、公認心理師国家資格取得を目指す学生及び、言語聴覚障害コースにおいて、言語聴覚士国家資格取得を目指す学生は、学外実習が必修になります。学外実習に伴い、実習施設使用料、実習指導者謝礼金、宿舍費用（遠隔地で実習の場合）等が必要になりますので、実習終了後に、かかった経費分を実費徴収させていただきます。詳細については、お問い合わせください。

2. 受験に際して注意する事柄

受験票：本学から受験票は郵送しません。出願期間終了翌日以降にWEB出願システムより受験票を発行しますので、各自で印刷し試験当日に必ず持参してください。当日は受験票が表に見えるように4つ折りにして机の上に置いてください。受験票を忘れてきた場合は、受付時に申し出てください。

机上物：小論文試験中、机の上に置くことができるものは、受験票、黒鉛筆（シャープペンシルを含みます）、鉛筆削り（電動式・大型・ナイフ類を除きます）、消しゴム、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものは除きます）、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパーです。

不正行為：小論文試験において、次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験中止と退室を指示され、それ以後の受験はできなくなります。また受験した選抜試験の全ての成績を無効とします。

- ・試験開始の指示前に解答を始めること
- ・不正な方法（机の上に置くことができないものを机の上に置いたり見たりすること、参考書・辞書等の書籍類を見ること、他の受験者の解答を見ること、他の受験者から解答を教わること等）により解答するカンニング行為
- ・試験時間中に携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末・電子辞書・ICレコーダー等の電子機器を使用すること
- ・試験終了の指示に従わず、解答を続けること

遅刻限度：試験開始後20分経過した後は、受験することができません。ただしやむを得ない理由（災害や交通機関の乱れや事故等）の場合は、この限りではありません。

面接会場（オンライン入試以外）への入室：誘導があるまで入室することはできません。指定場所で待機しててください。

発病等：試験の途中で身体に異常が生じた場合、その旨を監督者や面接者に告げ指示に従ってください。

緊急時：試験実施中に地震や火事等が発生した場合は、監督者や面接者の指示に従って適切な行動をとってください。

途中退出：試験時間中は、原則として途中退出は認めません。ただし、試験中身体に異常が生じた場合、その他トイレ等については、その旨を監督者や面接者に告げ指示に従ってください。

飲食：試験中や試験室（オンライン入試以外）での飲食は認めません。

携帯電話の取り扱い：携帯電話は試験開始前に電源を切り、カバンの中に入れてください（机の上や中、ポケットの中等、すぐに手が届く場所にしまうことはできません）。

アラームや時報機能のついた時計の取り扱い：アラームや時報機能のついた時計は試験開始前までにアラームや時報の設定を解除しておいてください。

* 感染防止のために

受験者の皆さまは、日頃から、各自感染症対策と体調管理に努め試験に臨んでください。

- ・試験室内（オンライン入試以外）では受験者の座席間に間隔を設けるとともに、適宜、試験室の換気を行います。
- ・試験会場（オンライン入試以外）にアルコール消毒液を設置しますので、適宜、手指の消毒をしてください。
- ・万が一、試験当日に体調がすぐれない場合（オンライン入試以外）は、症状等を確認したうえで別室受験とする場合もあります。

* 追試験措置等について

新型コロナウイルス感染症ほか、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ、その他）にかかり、治癒していない者は、他の受験者や監督者、その他の者等に感染するおそれがあるため受験できません。申請により追試験を受験できる場合がありますので、本学 大学院 学務委員会まで事前に連絡してください。

TEL：(0254)56-8292 FAX：(0254)56-8291（受付時間は平日の午前9時から午後5時までです。）

3. 試験の評価・合否判定方法

配点は小論文120点、面接120点、出願書類60点とし、合計300点満点です。評価は複数人で行います。総合得点が180点（得点率60%）以上の者を合格とします。ただし、小論文と面接のどちらか一方でも、評価者全員の判定がE（A～Eの5段階評価、A：特に優れている。B：優れている。C：普通。D：やや問題あり。E：問題あり。）だった場合は、得点率にかかわらず不合格とします。

4. 特待生制度概要(新潟リハビリテーション大学医療学部以外の出身者対象)

本学には、学業・人物ともに優れた入学試験成績上位者に対して、学費の一部免除の特典を与え、入学後の学業を奨励し学習意欲の高揚を図るとともに、リハビリテーション分野での有為な人材の育成に資することを目的とした「特待生」制度があります。

減 免 内 容	採用予定数
入学金の全額および各年度の授業料のうち100,000円を免除します。	選考基準を充たした上位の者 6名程度（両キャンパス合わせて）

免除された学費の返還義務は一切ありません。

申請方法：入学試験を受験した者は、すべて自動的に特待生の選考対象となります。

特待生選考基準：次のいずれかの条件を満たす者とします。

- ・小論文・面接・書類選考点数の合計が、得点率において70%以上である者のうちから、得点の高い上位の者6名程度。

結果の通知方法：特待生として選出された者には、合格通知書とともに文書にて通知します。

特待生資格取り消しについて：成績が著しく低下した場合、または特待生としてふさわしくない行為があった場合は、その資格を取り消すことがあります。

※特待生かつ長期履修学生（後述 6. 長期履修制度概要 参照）の場合については、減免後の授業料総額を3年間で支払うものとします。詳細については、お問い合わせください。

5. 内部進学者に対する特待生制度概要(新潟リハビリテーション大学医療学部出身者対象)

本学医療学部を卒業したのちに本学大学院に入学する内部進学者は、学部を卒業してから大学院に入学するまでの年数にかかわらず、大学院の入学金を全額免除します。

加えて、医療学部在籍中の成績が優秀な者に対しては、授業料を大幅に減免いたします。成績の基準や減免額などの詳細については、お問い合わせください。

6. 長期履修制度概要

本学には、職業を有している等の事情により、定められた修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、標準修業年限2年間を超え、3年間で修学することを認める長期履修制度があります。新入生が入学前に本制度の適用を申請し、それが認められた場合、納入する授業料総額は2年間分でもよく、2年間分の授業料を計画した履修年数3年で除した額を毎年納入することになります。この制度は、新入生だけでなく、在籍中の学生が事情変更により条件を満たした場合は、途中（1年次の1月末日までに申請し、2年次の4月から）でも適用されます。なお、長期履修を許可された者が、各年次の開始前（1月末日まで）に短縮を申請することも可能です。

新入生の場合は入学手続期間中に、在学学生の場合は1年次の1月末日までに、所定の手続きを行い審査を受けてください。審査後、すみやかに結果を通知しますので、新入生で長期履修の申請をした場合は、入学手続時の入学金以外の学納金は、審査結果の通知を受け取った後、締切日までに納入するようにしてください。

詳細については、お問い合わせください。

7. 独立行政法人日本学生支援機構における奨学金の貸与を希望する方へ

(1) 大学院での入学時特別増額貸与奨学金

入学月を始期として奨学金の貸与を受ける人は、希望により、入学月の基本月額に以下の金額を増額して貸与を受けることができます。ただし、第一種奨学金又は第二種奨学金の申込者で指定された条件を満たす人に限ります。また、入学前に貸与することはできませんので、ご注意ください。貸与金額：10万円・20万円・30万円・40万円・50万円

(2) 大学院に在学中の申込み（在学採用）

これまでに日本学生支援機構の奨学金を借りたことのある人は、申し込むことができない場合や借りられる期間が制限される場合があります。また、外国籍の人は申込資格に制限があります。

申込みは大学院を通じて行い、募集は原則として毎年春に行います。大学院入学後、早めに本学事務局にお問い合わせください。第一種奨学金（無利子）、第二種奨学金（有利子）及び併用貸与が対象となります。

(3) 緊急採用・応急採用

主たる家計支持者の失職、破産、事故、病気、死亡等若しくは火災、風水害等の災害等により、家計が急変し、緊急に奨学金の必要が生じた場合は、随時申込みを受け付けています。本学事務局へ相談してください。

※詳細は独立行政法人日本学生支援機構のホームページにある「大学院へ進学予定の方」の項を参照してください。

8. 入学辞退

入学手続を完了した後、事情により入学を辞退する場合は、2026年3月31日(火) 17:00までに、大学院 学務委員会まで電話連絡をしてください。その後、「入学辞退届」を送付しますので、必要事項を記入の上、入学許可証とともに提出してください。期日までに入学辞退を申し出た場合、入学金以外の学費を返還します。（ただし、銀行振込手数料を差し引いた金額です。また入学手続書類は返還しません。）なお入学辞退届の受理後、納入金の返還は銀行振込で行いますが、手続の都合上返還までに約1ヶ月かかりますのでご了承ください。

連絡先

新潟リハビリテーション大学 大学院 学務委員会 TEL：0254-56-8292

9. 入学者選抜に用いた個人情報の取り扱い

(1) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、

- ①入学者選抜（出願処理、選抜実施）
 - ②合格発表
 - ③入学手続
 - ④入学者選抜方法等における調査・研究、分析
 - ⑤これらに付随する業務
- を行うために利用します。

(2) 入学者選抜に用いた試験成績の個人情報は、入学者選抜方法等における調査・研究、分析を行うために利用します。

(3) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報及び入試成績は、入学者のみ入学後の

- ①教務関係（学籍、修学指導等）
 - ②学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）
 - ③授業料等
- に関する業務を行うために利用します。

10. 健康状況の把握及び障害のある方への配慮

(1) 入学志願者の健康状況については、原則として入学者選抜の判定資料としません。

(2) 障害のある方が受験される場合において、入学試験時に特別措置等を希望される場合は、出願前に本学大学院学務委員会まで、ご相談ください。なお、特別措置として、以下のような配慮を行うことができます。

小論文試験に際して

- ①拡大文字による出題、拡大解答用紙の作成、ICT機器の活用
- ②試験室座席指定の工夫
- ③試験時間の延長
- ④文書による注意事項の伝達
- ⑤試験室入り口までの付添者の同伴、介助者の配置
- ⑥その他

11. 被災受験者その他、経済的困窮者に対する特別措置について

被災者の経済的負担を軽減し、受験者の進学のための機会を確保するために、災害救助法適用地域居住の被災者を対象とした特別措置を設けています。特別措置の適用を希望される方は、本学 大学院 学務委員会まで事前に連絡してください。

TEL：(0254)56-8292 FAX：(0254)56-8291（受付時間は平日の午前9時から午後5時までです。）

また、被災受験者のほか家計が急変した受験者で、入学手続期間内に入学金や授業料の全部あるいは一部の納入が困難である場合は、延納や分納が可能です。詳細については、大学院学務委員会までお問い合わせください。

*被災受験者への特例措置について

災害とは

「災害」とは、災害対策基本法に基づき、「暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象又は大規模な火事もしくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害」のことをいいます。

対象者について

以下の定義による本学受験者および入学予定者を対象とします。

受験者…災害により被害を受けた年度（4月～3月）に、災害救助法適用地域から本学を受験した者。

入学予定者…上記の受験生のうち、合格し、所定の入学金を納めた者。

提出必要書類について

経済的救済措置の適用に関しては、居住地の行政の長が発行する次の公的証明書類、またはそれに準ずる書類の提出を必要とします。

- 1 被災……………被災（罹災）証明書
- 2 その他……………その他学費支弁の困難を証明する書類

受験者および入学予定者への支援内容・経済的救済措置限度額

被害区分AもしくはBに該当する場合に限りです。

被害区分	
A	住家の損失・流出・全壊・全焼・大規模半壊
B	半壊・半焼・床上浸水

受験者に対し、入学検定料を免除もしくは返還します。

入学予定者に対し、入学金を免除もしくは返還します。

入学検定料・入学金減免の可否決定・通知

大学運営委員会で随時審査し、学長が免除（返還）の可否等を決定し、申請者に通知します。

減免の取り消し

虚偽の申請、その他不正の手段により免除（返還）を受けたときには、免除（返還）に相当する金額を納付していただきます。

IV 大学院修士段階における「授業料後払い制度」について

授業料後払い制度とは、大学院修士課程（博士前期相当の課程を含む）や専門職学位課程の在学者が、在学中は授業料を納付せず、大学院修了後の所得等に応じて納付（後払い）できるという制度です。

実際の方法としては、独立行政法人日本学生支援機構が授業料相当額の奨学金（支援対象授業料）を奨学生に貸与したものと原則大学に振り込み、大学院修了後に、所得に応じて（大学ではなく）、機構に返還していただくものです。

授業料後払い制度では、授業料相当額の支援を含む「授業料支援金」と、在学中の生活費の支援である「生活費奨学金」の2つの支援を無利子で受けることができます。なお、生活費奨学金は、大学ではなく奨学生本人の口座に振り込まれます。

※詳細は独立行政法人日本学生支援機構のホームページにある「授業料後払い制度（大学院修士段階）」の項を参照してください。

V 研究生、科目等履修生、特別聴講学生選抜

○村上本校キャンパスでは、一般選抜による大学院生の他に、研究生、科目等履修生、特別聴講学生も下記により募集を行います。選考により随時入学することができます。大学院正規学生開講科目のうち、修士論文作成のための研究指導等を除き、本学が指定する講義科目の履修や聴講が可能です。詳しくはお問い合わせください。

(1) 研究生

特定の専門事項を研究するため研究生を希望する者は、本学の教育研究に支障のない範囲において選考により、研究生として入学を許可します。

(入学資格)

研究生として入学することのできる者は、大学院修士課程を修了した者またはこれと同等以上の学力があると学長が認めた者で、次の各号のいずれかに該当する者となります。

- (1) 修士の学位を有する者あるいは出願時において一か月以内に修士の学位を得る見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 本大学院において、個別の審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(出願に係る書類及び提出期限)

研究生となることを志願する者は、前もって入学後の研究指導予定教員と打ち合わせ了承を得た上で、原則として入学月の前月10日までに、研究生願（所定様式）および次の各号に掲げる書類を、大学院学務委員会宛、提出してください。

- (1) 検定料振込金受領書（本人控え）のコピー
- (2) 最終出身学校発行の卒業（見込）証明書もしくは修了（見込）証明書
- (3) 教育・研究歴、実務経験等調書（所定様式）
- (4) 履歴書（所定様式）
- (5) 研究生用研究計画書（所定様式）（研究指導予定教員の承諾印が押印されたもの）
- (6) 返信用封筒（角形2号封筒（定形外）に住所、氏名、郵便番号を明記し、必要額の郵便切手を貼ったもの）

(選考及び合否決定)

研究生の選考は、研究指導予定教員による書類審査及び面接によるものとします。合否の結果は文書で通知します。

(入学手続及び入学許可)

合格の通知を受け研究生として入学を希望するものは、登録料及び研究料を納付し、かつ誓約書を提出してください。

(研究期間等)

研究期間は入学を許可された年度において1年以内とします。ただし通算2年の範囲内で許可を得て、この期間を延長することができます。

(授業の聴講)

研究生は研究指導教員および授業担当教員の承認を得て、当該研究に関連のある授業を聴講することができます。聴講を希望する場合には、当該授業開始1週間前までに、研究生聴講願（所定様式）を提出してください。研究生は授業を聴講しても単位を修得することはできません。（単位を修得しようとするときは併せて科目等履修生として入学してください。）

(研究の修了)

研究を終えた際、あるいは研究期間の満了の際には、研究成果の概要を記載した研究修了（期間満了）届（所定様式）を、提出してもらいます。研究修了者に対しては、本人の請求により、研究証明書を交付します。

(検定料・登録料・研究料)

検定料等は下記に定めます。（電信扱振込依頼書に振込金額を記載して銀行窓口で払込みをしてください。）

	金 額
検 定 料	10,000円
登 録 料	20,000円
研 究 料	月額25,000円

(2) 科目等履修生

特定の授業科目を履修するため、科目等履修生を希望する者は、本学の教育研究に支障のない範囲において、選考により科目等履修生として入学を許可します。科目等履修生として入学することのできる者は、当該特定の授業科目を履修するのに十分な学力があると学長が認めた者とします。科目等履修生は単位を修得することが可能です。

(出願に係る書類及び提出期限)

科目等履修生となることを希望する者は、原則として入学月の前月10日までに、科目等履修生願（所定様式）および次の各号に掲げる書類を、大学院学務委員会宛、提出してください。なお入学は当該科目の開講開始月とします。

- (1) 検定料振込金受領書（本人控え）のコピー
- (2) 教育・研究歴、実務経験等調書（所定様式）
- (3) 履歴書（所定様式）
- (4) 返信用封筒（角形2号封筒（定形外）に志願者の住所、氏名、郵便番号を明記し、必要額の郵便切手を貼ったもの）

(選考及び合否決定)

科目等履修生の選考は、書類審査によるものとします。合否の結果は文書をもって通知します。

(履修手続及び履修許可)

合格の通知を受け科目等履修生となることを希望するものは、登録料及び科目等履修料を納付してください。

科目の履修、試験、評価等は本学が定める「授業科目の履修方法、試験・評価規程」に従って行います。

(検定料・登録料・科目等履修料)

検定料等は下記に定めます。（電信扱振込依頼書に振込金額を記載して銀行窓口で払込みをしてください。）

	金 額
検 定 料	10,000円
登 録 料	20,000円
科 目 等 履 修 料	1 単位につき15,000円

注：同一年度に複数の科目を履修する場合も、検定料、登録料の支払いは一回のみとなります。

しかし同一科目であっても、今年度、次年度というふうに複数年にわたって履修する場合は、年度ごとに検定料、登録料が必要になります。

(科目等履修生のうち本専攻に入学する場合の優遇措置)

科目等履修生として履修したのち、5年以内に本専攻へ入学する場合は、修得した単位を最大15単位まで、履修済み単位として移行することができます。その場合、科目等履修生として支払った検定料、登録料および科目等履修生として単位修得した科目の履修料は、本専攻の授業料から減免します。

(大学院正規授業科目の部分聴講)

大学院正規授業科目の一部のみを聴講することも可能です。その場合は単位を修得することはできません。詳細については、大学院学務委員会にお問い合わせください。

(3) 特別聴講学生

他の大学院の学生で、本学の特定の授業科目を履修するため特別聴講学生を希望する者は、他の大学院との協議に基づき、選考により特別聴講学生として入学を許可します。特別聴講学生は単位を修得することが可能です。

(出願に係る書類及び提出期限)

特別聴講学生となることを希望する者は、原則として入学月の前月10日までに、特別聴講願（所定様式）および次の各号に掲げる書類を、大学院学務委員会宛、提出してください。なお入学は当該科目の開講開始月とします。

- (1) 検定料振込金受領書（本人控え）のコピー
- (2) 在籍大学院発行の特別聴講許可証（任意様式）
- (3) 教育・研究歴、実務経験等調書（所定様式）
- (4) 履歴書（所定様式）
- (5) 返信用封筒（角形2号封筒（定形外）に志願者の住所、氏名、郵便番号を明記し、必要額の郵便切手を貼ったもの）

(選考及び合否決定)

特別聴講学生の選考は、書類審査及び面接によるものとします。合否の結果は文書をもって通知します。

(聴講手続及び聴講許可)

合格の通知を受け特別聴講学生となることを希望するものは、登録料及び聴講料を納付してください。

科目の履修、試験、評価等は本学が定める「授業科目の履修方法、試験・評価規程」に従って行います。

(検定料・登録料・聴講料)

検定料等は下記に定めます。（電信扱振込依頼書に振込金額を記載して銀行窓口で払込みをしてください。）

	金 額
検 定 料	2,000円
登 録 料	2,000円
聴 講 料	1 単位につき15,000円

VI 大学院専任教員、特任教員、客員教員

(2025年7月15日現在における2026年度担当教員予定)

コース担当教員の氏名や役職等は、2025年7月15日以降に、変更になる場合があります。

摂食・嚥下障害コース

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
やまむら ちえ 山村 千絵 yamamura@nur.ac.jp	学 長 研究科長 摂食・嚥下障害コース長 大学院学務委員長 教 授	博士（歯学） 歯科医師	○摂食嚥下に関する基礎生理学 ○嚥下調整食についての基礎的研究 ○高齢者が食べやすい食材の開発 ○口腔生理学 ○基礎歯科学

高次脳機能障害コース

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
おおひら よしのり 大平 芳則 y.ohdaira@nur.ac.jp	高次脳機能障害コース長 言語聴覚障害コース長 教 授	修士(リハビリテー ション医療学) 言語聴覚士 認定言語聴覚士 (聴覚障害領域)	○難聴を持つ人のリハビリテーション ○難聴者の語音聴取 ○人工内耳による語音聴取 ○補聴器による語音聴取 ○日本語の音声特性
いばやし かつひこ 伊林 克彦 ibayashi@nur.ac.jp	図書館長 教 授	医学博士 言語聴覚士	○認知症に関する基礎的研究 ○認知症患者に対する治療法の研究 ○高次脳機能障害学 ○失語症学
うちやま ちづこ 内山 千鶴子 c.uchiyama@nur.ac.jp	特任教授 (サテライトキャンパス担当)	教育学博士 言語聴覚士	○言語発達障害がある人への言語聴覚療法の実践と研究 ○小児の認知障害に対するリハビリテーションの実践と研究 ○言語聴覚士養成教育と教育全般の効果的な方法の研究

運動機能科学コース

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
こにし いさむ 古西 勇 konishi@nur.ac.jp	運動機能科学コース長 教 授	博士（医学） 理学療法士	○国際保健医療 ○理学療法学教育 ○運動を通じた健康増進 ○公衆衛生学
たかはし あけみ 高橋 明美 akemi.t@nur.ac.jp	副学長 教 授	博士（医学） 修士（工学） 理学療法士 専門理学療法士(神経)	○中枢神経疾患理学療法学 ○画像診断に基づく理学療法（脳画像） ○呼吸と循環応答に関する生体機能分析 ○疫学研究
こばやし りょうさく 小林 量作 r.kobayashi@nur.ac.jp	教 授 (サテライトキャンパス兼務)	博士（医学） 修士（教育学） 理学療法士 専門理学療法士 (神経) (生活環境支援)	○地域包括ケアシステム、介護予防 ○高齢者の転倒・骨折、ロコモ、フレイルの予防 ○神経難病の理学療法

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
きむら かずき 木村 和樹 k.kimura@nur.ac.jp	准教授	博士(保健医療学) 修士(保健医療学) 理学療法士 専門理学療法士 (生活環境支援) (内部障害) (基礎) 認定理学療法士 (代謝)	○糖尿病の理学療法 ○バランス能力および平衡機能の評価 ○若年者のロコモティブシンドローム
ちようじ ゆうき 丁子 雄希 tyouji@nur.ac.jp	准教授	博士(作業療法学) 作業療法士 認定作業療法士 公認心理師	○作業療法 ○生活支援 ○利き手交換(箸操作支援) ○脳卒中患者の運転支援 ○シングルケースデザイン ○尺度開発
いとう かつら 伊藤 渉 w.ito@nur.ac.jp	講師	修士(保健医療学) 博士(体育学) 理学療法士 認定理学療法士 (スポーツ理学療法) 日本スポーツ協会公認ア スレティックトレーナー	○スポーツ理学療法 ○アスレティックトレーニング ○スポーツ障害予防 ○バイオメカニクス ○動作解析
おしき りえこ 押木 利英子 oshiki@nur.ac.jp	特任教授	博士(医学) 修士(教育学) 理学療法士	○運動発達に関する研究 ○脳性麻痺、ダウン症に関する研究 ○中枢神経系疾患に関する臨床研究 ○小児理学療法学

(上記に加えて) 2026年4月からの新たな研究指導教員予定者

きたかみ もりとし 北上 守俊 教授	修士(リハビリテーション)・博士(医学) 作業療法士・言語聴覚士・公認心理師・認定作業療法士・専門作業療法士(就労支援、脳血管障害)
ほしの ひろゆき 星野 浩通 准教授	博士(工学)、理学療法士
ながしま ゆうこ 長島 裕子 講師	修士(保健学)・博士(医学)、理学療法士

心の健康科学コース

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
おおや かほ 大矢 薫 ohya@nur.ac.jp	心の健康科学コース長 (サテライトキャンパス兼務) 学生部長 学習センター長 キャリア支援センター長 准教授	博士(心理学) 修士(教育学) 公認心理師 臨床心理士 キャリアコンサル タント	○ポジティブ心理学 ○レジリエンス ○グリット(やり抜く力) ○心理教育プログラムの開発 ○学校教育における心理学的支援 ○メンタルヘルス
まとば みちこ 的場 巳知子	理事長 教授	博士(医学) 医師	○精神病理学、芸術療法 ○慢性疼痛の臨床研究 ○スポーツ医学におけるメンタルリハビリテーション

(上記に加えて) 2026年4月からの新たな研究指導教員予定者

きたかみ もりとし 北上 守俊 教授	修士(リハビリテーション)・博士(医学) 作業療法士・言語聴覚士・公認心理師・認定作業療法士・専門作業療法士(就労支援、脳血管障害)
-----------------------	---

言語聴覚障害コース

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
おおだいら よしのり 大平 芳則 y.ohdaira@nur.ac.jp	言語聴覚障害コース長 教授	修士(リハビリテーション医療学) 言語聴覚士 認定言語聴覚士 (聴覚障害領域)	○難聴を持つ人のリハビリテーション ○難聴者の語音聴取 ○人工内耳による語音聴取 ○補聴器による語音聴取 ○日本語の音声特性
やまむら ちえ 山村 千絵 yamamura@nur.ac.jp	学長 研究科長 摂食・嚥下障害コース長 大学院学務委員長 教授	博士(歯学) 歯科医師	○摂食嚥下に関する基礎生理学 ○嚥下調整食についての基礎的研究 ○高齢者が食べやすい食材の開発 ○口腔生理学 ○基礎歯科学
いばやし かつひこ 伊林 克彦 ibayashi@nur.ac.jp	図書館長 教授	医学博士 言語聴覚士	○認知症に関する基礎的研究 ○認知症患者に対する治療法の研究 ○高次脳機能障害学 ○失語症学

リハビリテーション看護学コース(2026/4開設予定 設置届出)

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
まとば みちこ 的場 巳知子	理事長 教授	博士(医学) 医師	○精神病理学、芸術療法 ○慢性疼痛の臨床研究 ○スポーツ医学におけるメンタルリハビリテーション

6コース共通

教員	役職・職位	学位 国家資格等	教育研究内容・専門領域
あさみ いわお 浅海 岩生	特任教授	博士(医学) 修士(学術) 理学療法士	○運動と感覚の基礎研究 ○反応時間測定に関する研究 ○物理療法学 ○基礎理学療法学
かとう とよひろ 加藤 豊広	客員准教授	博士(医学) 修士(健康科学) はり師・きゅう師 あん摩マッサージ指圧師	○衛生学・公衆衛生学 ○相補(補完)・代替医療 ○統合医療 ○健康科学 ○法律と医療に関する研究

Ⅶ 科目履修について(2026年度入学者より新カリキュラム適用となります。)

<教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)>

*カリキュラムの概要

教育課程は、**共通科目**と**専門科目**に分かれます。1年次前期は主として6コース共通の教育(主に共通科目)、1年次後期からコース別の教育(専門科目)となります。修士課程修了に必要な単位数は、研究指導を除き、コース別に次の通りとなります。

2026年度入学者より(予定)

- ・摂食・嚥下障害コース：必修8単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上
- ・高次脳機能障害コース：必修8単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上
- ・運動機能科学コース：必修3単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上
- ・心の健康科学コース(一般課程)：必修9単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上
- ・心の健康科学コース(公認心理師課程)：必修24単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上
- ・言語聴覚障害コース：必修4単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上
- ・リハビリテーション看護学コース：必修3単位、選択必修1単位以上を含む30単位以上

*カリキュラム・ポリシー

本大学院が目指しているものは、リハビリテーション医療の中でも高度で専門的な分野において、心身ともにさまざまな困難を抱えている患者さまやご家族に対して援助ができる有能な医療従事者、および教育・研究者を育成することであり、この目的を達成するために、以下の教育カリキュラムを編成しています。また、学修した知識をもとに修士論文作成のための研究指導を行います。

- ①共通科目では、人間尊重の精神を基礎とした医療関連科目の教育を行い、専門科目を学ぶための基礎を養います。
- ②専門科目では、身体的、精神的に困難を抱える弱者、および彼らを取り巻く家族や地域社会を理解し、適切な援助が行える医療従事者あるいは教育・研究者を育成するために必要な科目を履修させます。この専門科目では、より深い専門性を学ばせるために、コースに分かれて学修させますが、一方で、より広い視野にたてるように、所属コース以外のコースから科目を選択して学修することもできます。サテライトキャンパスの学生においても、他コースの科目を選択して学修することが可能(WEB授業等を活用)です。
- ③研究指導では、修士論文作成に向けて、文献検索、論文作成計画、データ処理、論文の著述等の指導を、指導教員を中心として行います。

通常履修生(標準修業年限2年)の場合

1年次前期(6コース共通)

共通科目→**必修科目**(心の健康科学コース公認心理師課程は3単位、そのほかは2単位)及び
選択科目(1、2年次開講の専門選択科目と合わせて)

- ・摂食・嚥下障害コース：選択必修1、選択21単位以上
- ・高次脳機能障害コース：選択必修1、選択21単位以上
- ・運動機能科学コース：選択必修1、選択26単位以上
- ・心の健康科学コース(一般課程)：選択必修1、選択20単位以上
- ・心の健康科学コース(公認心理師課程)：選択必修1、選択5単位以上
- ・言語聴覚障害コース：選択必修1、選択25単位以上
- ・リハビリテーション看護学コース：選択必修1、選択26単位以上

を学びます。共通科目ではリハビリテーション医療等に関連する科目を履修します。

専門科目(総論科目)→総論科目として「摂食・嚥下障害学総論」、「高次脳機能障害学総論Ⅰ・Ⅱ」、「運動機能科学総論」、「心の健康科学総論」、「言語聴覚障害学総論」「リハビリテーション看護学総論」を開講しています。所属するコースが開講する総論科目は必修とし、かつ他コースが開講する総論科目を1単位以上選択(選択必修)して学修します。

- ・これら総論科目は、村上本校学生にあっては、コース最終決定の参考のための科目として位置づけます。村上本校学生で、入学時までに進学コースが未定だった場合や、入学後にコース変更を希望する場合は、6月末までに進学コースの最終決定をして届け出てください。
- ・サテライトキャンパスの学生にあっては、高次脳機能や運動機能科学、心の健康科学の領域だけでなく、近接して関連する領域まで視野を広め理解を深めるための科目として位置づけます。

1年次後期(コース別)

各コースに分かれて専門科目(必修科目及び選択科目)のみの履修となります。

2年次前期(コース別)

各コースに分かれて専門科目(必修科目及び選択科目)のみの履修となります。

2年次後期(コース別)

科目履修はありません。

長期履修生の場合

各自の長期履修計画書に基づいて、3年間で計画的に履修してください。

*上記の科目履修の他に、研究指導(通常履修生の場合：1～2年次、長期履修生の場合：各自の計画に基づいた年次)を受け、修士論文研究の実施及び修士論文の作成が必要です。

Ⅷ 修了要件と学位授与

<学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)>

本大学院で以下のような能力を身に付け、かつ修了要件を満たした学生は、修了が認定され、修士（リハビリテーション医療学）の学位が授与されます。

1. 共通科目の履修を通して、リハビリテーション医療に対する理解を深めるために、専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢。
2. 各コースにおける体系的な学修を通して、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害、運動機能科学、心の健康科学、言語聴覚障害、リハビリテーション看護学に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力。
3. 修士論文研究を通して、高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力。

<修了要件>

1. 研究科に2年以上在学すること。
2. 各コースで定められた必修単位を含む30単位以上を修得すること。
3. 提出期限までに修士論文を提出し、修士論文の審査（論文審査、発表審査）および最終試験に合格すること。
4. 所定の学費等を納めていること。

Ⅸ サテライトキャンパスで実施する教育方法の特例 [大学院設置基準第14条]による教育

医療・保健・福祉・リハビリテーション等施設、教育研究機関、官公庁、企業等において活躍中の社会人が本研究科で学ぶ場合、勤務を離れ学業に専念するというような就学条件を満たすことは一般的に難しいことです。そこで、このような社会人学生に対しては、大学院設置基準第14条の「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」の規定に基づき、教育方法の特例を実施します。

この特例により、学生は、指導教員と協議の上、通常の授業形態のほか、夜間講義や週末又は夏期等の休業期間における集中講義等による単位修得あるいは、夜間や週末における研究指導の便宜を受けて研究を継続させ、修士論文を作成することができます。

X 授業科目 (2026年度開講予定科目)

- ・村上本校キャンパスの授業は、対面型授業（平日昼間）が主で、一部、Web授業、e-learningを行います。
- ・サテライトキャンパスの授業は、対面型授業（主に土曜日・日曜日）のほか、Web授業、e-learning等の手段を用いて行います。

*国家資格受験資格要件を得ることが可能な「心の健康科学コース（公認心理師課程）」及び「言語聴覚障害コース」においては、履修に際しての注意事項があります。

心の健康科学コース(公認心理師課程)

公認心理師国家試験受験資格要件

1. 大学卒業時に法の定める25の心理学関連科目を修得していることが必要です。
2. そのうえで、大学院において法の定める10の心理学関連科目（以下に示すカリキュラム表において①～⑩と表記）すべてを修得していることが必要です。
3. ①～⑩のうち同じ番号が付されているものは、少なくともどちらか一方を修得していればよいです。

修士論文（研究指導）について

1. ⑩心理実践実習をもとにした症例報告論文でも可とします。

言語聴覚障害コース

1. 大学院修了要件と言語聴覚士国家試験受験資格要件は異なります。
2. 言語聴覚士国家試験受験資格を得るためには「法で定められた受験要件となっている科目」のうち、大学院入学までに未修得の科目を（本コースにおいて）すべて修得しなければなりません。また、4年制大学卒業等により学士を授与されていること（大学改革支援・学位授与機構による学士授与見込みでも可）が必要です。

修士論文（研究指導）について

1. 臨床実習をもとにした症例報告論文でも可とします。

大学院（修士課程）教育課程一覧（2026年度入学生より）

摂食・嚥下障害コース

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修8、選択必修1、選択21）単位以上

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	
			必修	選択
共通科目	内科学	1		1
	神経科学	1		2
	外科・整形外科	1		1
	医療倫理	1	1	
	研究方法論	1	1	
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	公衆衛生学総論	1		1
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	臨床解剖学	1		1
	神経解剖学	1		2
	神経心理学	1		1
	リスク管理学	1		1
	職場マネジメント	1		1
	教育指導法	1		1
	小計（14科目）	-	2	14
専門科目	摂食・嚥下障害学総論	1	2	
	口腔咽喉頭機能学	1		1
	摂食・嚥下障害評価学	1	2	
	摂食・嚥下予防学	1		1
	摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）	1		1
	摂食・嚥下訓練・治療法（臨床）	1	1	
	口腔介護	1	1	
	摂食・嚥下食品・栄養学	2		1
	摂食・嚥下障害ケーススタディ・研究方法論	2		2
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1		1
	発達神経心理学	1		1
	前頭葉機能・右半球障害	1		1
	注意・記憶・行為・遂行機能障害	1		1
	発達障害	1		1
	失語・失読・失書	1		1
	認知科学・認知機能障害	2		1
	運動機能科学総論	1		1
	老年期リハビリテーション	1		1
	地域リハビリテーション	1		1
	生活環境科学（住環境・ADL）	1		1
	動作測定技法Ⅰ	1		1
	生活支援デバイス論（補装具など）	1		1
	運動発達障害特論	1		1
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1		1
	アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	2		1
	キャリア形成とリハビリテーション心理学（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	高齢期とリハビリテーション心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	1		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	1		1
	疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	心理アセスメント特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1		2
	サイコセラピー特論（心理支援に関する理論と実践）	2		2
アートセラピー特論	2		1	
支援コミュニケーション特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2		1	
言語聴覚障害学総論	1		2	
リハビリテーション看護学総論	1		1	
看護教育学	1		2	
研究指導	1-2	④		
	小計（39科目）	-	6+④	39
	合計（53科目）	-	8+④	53

高次脳機能障害コース

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修8、選択必修1、選択21）単位以上

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数	
			必修	選択
共通 科目	内科学	1		1
	神経科学	1		2
	外科・整形外科	1		1
	医療倫理	1	1	
	研究方法論	1	1	
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	公衆衛生学総論	1		1
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	臨床解剖学	1		1
	神経解剖学	1		2
	神経心理学	1		1
	リスク管理学	1		1
	職場マネジメント	1		1
	教育指導法	1		1
	小計（14科目）	—	2	14
専門 科目	摂食・嚥下障害学総論	1		2
	摂食・嚥下予防学	1		1
	摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）	1		1
	摂食・嚥下訓練・治療法（臨床）	1		1
	口腔介護	1		1
	摂食・嚥下食品・栄養学	2		1
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1	1	
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1	1	
	発達神経心理学	1		1
	高次脳機能障害評価学Ⅰ（コンピュータ評価技法）	1		1
	高次脳機能障害評価学Ⅱ（画像）	2	1	
	高次脳機能障害評価学Ⅲ（神経心理）	2	1	
	前頭葉機能・右半球障害	1		1
	注意・記憶・行為・遂行機能障害	1	1	
	発達障害	1		1
	失語・失読・失書	1		1
	認知科学・認知機能障害	2	1	
	高次脳機能障害ケーススタディ・研究方法論	2		2
	運動機能科学総論	1		1
	老年期リハビリテーション	1		1
	地域リハビリテーション	1		1
	生活機能障害作業療法学	1		1
	精神・認知機能障害作業療法学	1		1
	中枢神経疾患治療技法	1		1
	運動発達障害特論	1		1
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1		1
	アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	2		1
	キャリア形成とリハビリテーション心理学（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	高齢期とリハビリテーション心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	1		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	1		1
	疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	心理アセスメント特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1		2
サイコセラピー特論（心理支援に関する理論と実践）	2		2	
アートセラピー特論	2		1	
支援コミュニケーション特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2		1	
言語聴覚障害学総論	1		2	
リハビリテーション看護学総論	1		1	
研究指導	1-2	④		
	小計（39科目）	—	6+④	37
	合計（53科目）	—	8+④	51

運動機能科学コース

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修3、選択必修1、選択26）単位以上

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数	
			必修	選択
共通 科目	内科学	1		1
	神経科学	1		2
	外科・整形外科	1		1
	医療倫理	1	1	
	研究方法論	1	1	
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	公衆衛生学総論	1		1
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	臨床解剖学	1		1
	神経解剖学	1		2
	神経心理学	1		1
	リスク管理学	1		1
	職場マネジメント	1		1
	教育指導法	1		1
	小計（14科目）	—	2	14
専門 科目	摂食・嚥下障害学総論	1		2
	摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1		1
	高次脳機能障害評価学Ⅰ（コンピュータ評価技法）	1		1
	前頭葉機能・右半球障害	1		1
	注意・記憶・行為・遂行機能障害	1		1
	失語・失読・失書	1		1
	認知科学・認知機能障害	2		1
	運動機能科学総論	1	1	
	老年期リハビリテーション	1		1
	地域リハビリテーション	1		1
	運動機能障害特論（運動器・スポーツ障害）	1		1
	生活機能障害作業療法学	1		1
	生活環境科学（住環境・ADL）	1		1
	物理療法学特論	1		1
	精神・認知機能障害作業療法学	1		1
	作業活動分析学	1		1
	中枢神経疾患治療技法	1		1
	動作測定技法Ⅰ	1		1
	動作測定技法Ⅱ	1		1
	生活支援デバイス論（補装具など）	1		1
	運動発達障害特論	1		1
	内部障害のリハビリテーション	1		1
	スポーツ理学療法特論	2		1
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1		1
	アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	2		1
	キャリア形成とリハビリテーション心理学（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	高齢期とリハビリテーション心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	1		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	1		1
	疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
心理アセスメント特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1		2	
サイコセラピー特論（心理支援に関する理論と実践）	2		2	
アートセラピー特論	2		1	
支援コミュニケーション特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2		1	
言語聴覚障害学総論	1		2	
リハビリテーション看護学総論	1		1	
研究指導	1-2	④		
	小計（40科目）	—	1+④	42
	合計（54科目）	—	3+④	56

心の健康科学コース（一般課程）

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修9、選択必修1、選択20）単位以上

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数	
			必修	選択
共通 科目	内科学	1		1
	神経科学	1		2
	外科・整形外科	1		1
	医療倫理	1	1	
	研究方法論	1	1	
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	公衆衛生学総論	1		1
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	臨床解剖学	1		1
	神経解剖学	1		2
	神経心理学	1		1
	リスク管理学	1		1
	職場マネジメント	1		1
	教育指導法	1		1
	小計（14科目）	—	2	14
専門 科目	摂食・嚥下障害学総論	1		2
	摂食・嚥下障害評価学	1		2
	口腔介護	1		1
	摂食・嚥下食品・栄養学	2		1
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1		1
	発達神経心理学	1		1
	高次脳機能障害評価学Ⅱ（画像）	2		1
	高次脳機能障害評価学Ⅲ（神経心理）	2		1
	前頭葉機能・右半球障害	1		1
	注意・記憶・行為・遂行機能障害	1		1
	発達障害	1		1
	失語・失読・失書	1		1
	認知科学・認知機能障害	2		1
	運動機能科学総論	1		1
	老年期リハビリテーション	1		1
	地域リハビリテーション	1		1
	運動機能障害特論（運動器・スポーツ障害）	1		1
	生活機能障害作業療法学	1		1
	生活環境科学（住環境・ADL）	1		1
	精神・認知機能障害作業療法学	1		1
	運動発達障害特論	1		1
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1	1	
	質的研究法特論	1		1
	子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅰ	1	1	
	子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅱ	2		1
	アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	2		1
	キャリア形成とリハビリテーション心理学（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1	1	
	高齢期とリハビリテーション心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	1		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	1		1
	疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	心理アセスメント特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2	
サイコセラピー特論（心理支援に関する理論と実践）	2	2		
アートセラピー特論	2		1	
支援コミュニケーション特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2		1	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1		1	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2		1	
言語聴覚障害学総論	1		2	
リハビリテーション看護学総論	1		1	
研究指導	1-2	④		
	小計（41科目）	—	7+④	38
	合計（55科目）	—	9+④	52

心の健康科学コース（公認心理師課程）

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修24、選択必修1、選択5）単位以上

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		公認心理師法 との対応
			必修	選択	
共通 科目	内科学	1		1	
	神経科学	1		2	
	外科・整形外科	1		1	
	医療倫理	1	1		
	研究方法論	1	1		
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1	①
	公衆衛生学総論	1		1	
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1	1		③
	臨床解剖学	1		1	
	神経解剖学	1		2	
	神経心理学	1		1	
	リスク管理学	1		1	
	職場マネジメント	1		1	
	教育指導法	1		1	
	小計（14科目）	—	3	13	
専門 科目	摂食・嚥下障害学総論	1		2	
	摂食・嚥下障害評価学	1		2	
	口腔介護	1		1	
	摂食・嚥下食品・栄養学	2		1	
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1		1	
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1		1	
	発達神経心理学	1		1	
	高次脳機能障害評価学Ⅱ（画像）	2		1	
	高次脳機能障害評価学Ⅲ（神経心理）	2		1	
	前頭葉機能・右半球障害	1		1	
	注意・記憶・行為・遂行機能障害	1		1	
	発達障害	1		1	
	失語・失読・失書	1		1	
	認知科学・認知機能障害	2		1	
	運動機能科学総論	1		1	
	老年期リハビリテーション	1		1	
	地域リハビリテーション	1		1	
	運動機能障害特論（運動器・スポーツ障害）	1		1	
	生活機能障害作業療法学	1		1	
	生活環境科学（住環境・ADL）	1		1	
	精神・認知機能障害作業療法学	1		1	
	運動発達障害特論	1		1	
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1	1		⑨
	質的研究法特論	1		1	
	子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅰ	1		1	
	子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅱ	2		1	
	アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	2		1	
	キャリア形成とリハビリテーション心理学（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1	1		⑤
	高齢期とリハビリテーション心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	1		②
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	1		1	
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	1		1	
	疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1	1		①
	心理アセスメント特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2		⑥
	サイコセラピー特論（心理支援に関する理論と実践）	2	2		⑦
アートセラピー特論	2		1		
支援コミュニケーション特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	1		⑤	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1	1		④	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	1		⑧	
心理実践実習	1-2	10		⑩	
言語聴覚障害学総論	1		2		
リハビリテーション看護学総論	1		1		
研究指導	1-2	④			
	小計（42科目）	—	21+④	34	
	合計（56科目）	—	24+④	47	

公認心理師国家試験受験資格要件

1. 大学卒業時に法の定める25の心理学関連科目を修得していること
2. そのうえで、大学院において法の定める10の心理学関連科目（①～⑩）すべてを修得していること
3. ①～⑩のうち同じ番号が付されているものは、少なくともどちらか一方を修得していること

研究指導について

1. ⑩心理実践実習をもとにした症例報告論文でも可とする

言語聴覚障害コース

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修4、選択必修1、選択25）単位以上

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数	
			必修	選択
共通科目	内科学	1		1
	神経科学	1		2
	外科・整形外科	1		1
	医療倫理	1	1	
	研究方法論	1	1	
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	公衆衛生学総論	1		1
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	臨床解剖学	1		1
	神経解剖学	1		2
	神経心理学	1		1
	リスク管理学	1		1
	職場マネジメント	1		1
	教育指導法	1		1
	小計（14科目）	—	2	14
専門科目	摂食・嚥下障害学総論	1		2
	口腔咽喉頭機能学	1		1
	摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1		1
	高次脳機能障害学評価Ⅱ（画像）	2		1
	発達障害	1		1
	失語・失読・失書	1		1
	運動機能科学総論	1		1
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1		1
	高齢期とリハビリテーション心理学（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		1
	臨床心理学	1		1
	生涯発達心理学	1		1
	学習心理学	1		1
	認知心理学	1		1
	心理測定法	1		1
	医学概論	1		1
	解剖学	1		1
	生理学	1		1
	病理学	1		1
	小児科学	1		1
	耳鼻咽喉科学	1		1
	形成外科学	1		1
	言語医学	1		1
	音声医学	1		1
	聴覚医学	1		1
	言語学	1		2
	音声学	1		2
	言語発達学	1		1
	音響学	1		2
	聴覚心理学	2		2
	社会保障論	1		1
	リハビリテーション概論	1		1
	社会保障・教育とリハビリテーション	1		1
	地域言語聴覚療法学	2		2
	言語聴覚障害学総論	1	2	
	言語聴覚障害学診断学	2		2
	言語発達障害学概論	1		2
	言語発達障害学各論	2		2
	言語発達障害学演習	2		1
	音声障害学	2		1
	運動障害性構音障害学	2		2
	器質性構音障害学	2		1
	機能性構音障害学	2		1
	吃音	2		1
	小児聴覚障害学	2		1
	成人聴覚障害学	2		1
補聴器・人工内耳	2		2	
聴力検査法	1		2	
聴力検査演習	2		1	
言語聴覚療法管理学	2		2	
リハビリテーション看護学総論	1		1	
見学実習	1		2	
評価実習	2		4	
総合臨床実習	2		8	
臨床実習教育	2		1	
研究指導	1-2	④		
	小計（57科目）	—	2+④	79
	合計（71科目）	—	4+④	93

大学院修了要件と言語聴覚士国家試験受験資格要件は異なる。

リハビリテーション看護学コース

※修了要件単位数は研究指導を除き30（必修3、選択必修1、選択26）単位以上

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数	
			必修	選択
共通 科目	内科学	1		1
	神経科学	1		2
	外科・整形外科	1		1
	医療倫理	1	1	
	研究方法論	1	1	
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	公衆衛生学総論	1		1
	教育心理学（教育分野に関する理論と支援の展開）	1		1
	臨床解剖学	1		1
	神経解剖学	1		2
	神経心理学	1		1
	リスク管理学	1		1
	職場マネジメント	1		1
	教育指導法	1		1
	小計（14科目）	—	2	14
専門 科目	摂食・嚥下障害学総論	1		2
	摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）	1		1
	口腔介護	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）	1		1
	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）	1		1
	発達神経心理学	1		1
	前頭葉機能・右半球障害	1		1
	注意・記憶・行為・遂行機能障害	1		1
	発達障害	1		1
	失語・失読・失書	1		1
	認知科学・認知機能障害	2		1
	運動機能科学総論	1		1
	老年期リハビリテーション	1		1
	生活環境科学（住環境・ADL）	1		1
	生活支援デバイス論（補装具など）	1		1
	運動発達障害特論	1		1
	心の健康科学総論（心の健康教育に関する理論と実践）	1		1
	アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	2		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	1		1
	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	1		1
	アートセラピー特論	2		1
	言語聴覚障害学総論	1		2
	言語発達障害学概論	1		2
	聴力検査演習	2		1
	失語症演習	2		1
	リハビリテーション看護学総論	1	1	
	看護教育学	1		2
	内部障害のリハビリテーション	1		1
	地域・在宅リハビリテーション看護	1		1
	社会復帰における看護の役割（退院支援・訪問看護）	1		1
	認知症患者の看護	1		1
脳神経障害における看護	1		1	
精神障害における看護	1		1	
摂食・嚥下障害における看護	1		1	
運動機能障害のある人の看護	1		1	
フィジカルアセスメント	1		1	
研究指導	1-2	④	1	
	小計（37科目）	—	(1+④)	39
	合計（51科目）	—	(3+④)	53

学校法人 北都健勝学園



Niigata University of Rehabilitation

新潟リハビリテーション大学

〒 958-0053 新潟県村上市上の山2番 16号

TEL (0254)56-8292 FAX (0254)56-8291

URL <https://nur.ac.jp/> E-mail gs-guide@nur.ac.jp